

# みんなの環境

第27号 2010年8月20日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

[http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/)

## みんなの環境展 2010 を振り返って

代表 狩野光子

第6回目の「みんなの環境展」(実行委員長・青砥航次)は、厚木市が初めての市民協働事業の第1号として、食と環境をテーマに6月26、27日、厚木市文化会館で開催しました。

環境問題はあまりにも多岐にわたり、複雑に絡み合っていて何が問題なのか? どうしたら良いのか? 具体的に分かりにくいのが現実です。今回は身近な“食”を取り上げました。

私たちは誰でも毎日、食事をする事によって命を繋いでいます。1日3食とすると、1年間に1,080回、80歳まで生きるとすると、なんと8万6,400回もする事になります。

とりわけ、日本のように食料を海外に依存していると、信じられないくらい地球規模で環境に負荷を与えています。

また、日本人の持つ美意識? が、食の安全から食の衛生へと傾き、日本人が摂取する添加物の量は年間1人4kg以上、農薬、除草剤の使用量も世界一といわれ、これでは日本人が丸ごと薬品漬け? の状態になってしまっている不安を感じます。

人間は60兆以上の細胞で成り立っているといわれていますが、人の細胞に優しい生活は、他の生物にも優しいし地球にも優しいのです。そんな生活をするためには、事実の中の真実を知りこれを真摯に受け入れなければ、便利な生活からなかなか抜け出せません。

日々、環境に優しい生活スタイルを積み重ねていくため、より洗練された向上心が培われればと願いこのテーマを具体化しました。

フランスのドキュメンタリー映画『未来の食卓』を上映。食品添加物ジャーナリスト・安部司氏の『食品の裏側』は実験を交えての講演。パネルディスカッション(司会進行・井上允)では、弁護士でダイオキシン、環境ホルモン対策国民会議・事務局長の中下祐子氏、JA あつぎ代表理事組合長・井萱修巳氏と、当会からは私が参加し「安全な食を子供たちに」というテーマに沿って、それぞれの立場で有意義な意見交換を行い聴講のみなさまがたにも問題提起しました。

4階集会室では26、27日の両日、太陽と大地の恵みを、みんなの手作りパネルで発信しました。「子供たちへ美しいふるさとを残してあげたい!」と近隣で環境保全活動を行っている仲間たちの活動も紹介しました。

2日間にわたり500名以上来場した市民のみなさんが「食」に関して何かを掴んでいただければ主催者としてありがたく思います。厚木市・環境総務部、協働安全部には全てにわたり援助と協力をいただきました。また、JA あつぎをはじめ、この事業に賛同され出展いただいた各団体、ボランティアのみなさんにも深謝いたします。

来年度は、「水と環境」をテーマとして取り組む予定で、平成23年度厚木市・市民協働事業の審査に臨みます。ご協力とご支援よろしくお願いたします。

# 「食」に一石を投じる



ドキュメンタリー映画「未来の食卓」は、小林常良・厚木市長、安部司氏、パネラーの中下裕子氏、井萱修巳氏を始め多くの市民が鑑賞され、関心の高さを伺い知るとともに日本の食を考えるよい機会となりました。

午後は、小林市長と本会の狩野代表の挨拶に続き、安部氏の基調講演「食品の裏側」。日本の「食」の現状、添加物が日本の食文化を壊していること、特に添加物が子どもの味覚を壊していること、な

どが実演を交えて面白く解説され、聴衆の多くは食品添加物への関心を一層深めることができたのではないかと思います。

続くパネルディスカッションでは、パネラーに弁護士の中下裕子氏、JA あつぎ代表理事組合長の井萱修巳氏、本会代表の狩野光子が「安全な食を子どもたちに」というテーマでそれぞれの立場から事例発表、問題提起、ディスカッションを行ないました。**(写真)**

狩野代表は、自分たちにできることとして、市内の生産農家2戸から旬の野菜を1ヶ月に1回1籠1000円で届けてもらう地産地消運動を6年前からスタート、現在2つのステーションで継続していることを報告。

井萱氏からは、JA あつぎが各支所の直売所やファーマーズマーケット「夢未市」、及川の「グリーンセンター」などで市民に新鮮な地元産農産物を供給しているほか、抜き打ちで農産物の残留農薬検査を行ない安全性を確認していること、生産者には農産品目毎の農薬使用も含めた栽培記録をつける指導を行なっていることなど安全・安心な食の提供への取組が報告されました。

中下氏は、子どもたちの異変と化学物質、ネオニコチノイド系農薬や有機リン系農薬を始め家庭内殺虫剤、シロアリ駆除剤などによるヒト・環境汚染、特に10年前から国内でも使用され始めたネオニコチノイド系農薬はニコチンと同様な毒性をもち、ミツバチの蜂群崩壊症候群(CCD)の原因とも疑われていること、日本におけるネオニコチノイド系農薬物質アセタミプリドの食品残留基準値が欧州に比べて50~500倍と異常に緩いこと、などショッキングな内容を報告されました。

ディスカッションでは農薬についての話題が中心になりましたが、生産者(農家)に対して適正使用(登録農作物以外の使用禁止、使用回数、使用希釈倍率の遵守など)の徹底をはかりつつ、減農薬への移行が必要であること、消費者が虫の食害のないきれいな農産物を求める現状から、食害のある作物ほど安全な証拠であるという意識改革をする必要があること、“減農薬”をうたい文句のネオニコチノイド系農薬は、昆虫類の神経系に作用するもので、ヒトにも影響を及ぼす恐れがあるので、生産者(農家)に問題提起と啓発をしていく必要があることなどが話題となりました。今後、消費者である私たちが身の回りにあふれている“農薬”には一層の関心を寄せなければなりません。最後に今回の映画、講演、パネルディスカッションは、これからの「食」について、一石を投じ、一人ひとりが考える良い機会になったのではないかと思います。(6月27日、小ホール)

(井上 允)

# 環境への願い 短冊に

みんなの環境展も6回目を迎え、厚木市との協働事業による開催となった今年、手作りながら今までよりは見栄えの良い展示にしようとがんばって見ました。

馬子にも衣装という言葉がありますが、平面展示物はほとんどパネルに入れて会場内の統一性を出すようにしたことです。全体の約半分をテーマの「食と環境」特に「農」に焦点を当て系統的な展示に心がけました。

農の基本は自然の循環の中にうまく位置づけることで安全安心良質な食を得ることです。

自然のしくみ 一里山里地環境の中で行われていた従来の農業— 現代にそれを生かす工夫と地産地消— これらは地域に限られたものではなくグローバルにも意味のあること、というような展開にした展示は参観者にどのような印象を持っていたのでしょうか。

1日目の午後、地元農家の牧田さんを囲んでの井戸端トークでは20人近い方の囲みができて中身のある話し合いができました。

その他の展示では、厚木市の環境活動、太陽エネルギー（太陽光発電・ソーラークッカー）、厚木の生き物から生物多様性を考える、本会や地元で活動する団体の発表などがあり、毎年積み重ねの経験から洗練された展示となっていました。

今年ユニークだったのは、七夕を控えていることから会場に竹飾りを立て、来場した方に環境への想いを短冊にして下げて貰ったことです。多くの人たちがそれぞれ良い環境を願った様々な思いがこの竹飾りで一つにできたことが主催者にとってはうれしいことでした。



若い方たちから熱心に質問された



厚木の自然も関心が高い



環境への願いを七夕の短冊へ

(青砥航次)



# 食への想い広がる

## みんなの環境展2010



開場と同時に受付は混雑



あいさつする小林常良・厚木市長



安部司氏は実験を交えての講演



太陽光発電は来場者の関心が深い



七夕かざりは子どもたちにも人気



実験はいつも人だかりができる

## みんなの環境展 2010 おたより 北から南から



映画「未来の食卓」と安部司氏の講演「食品の裏側」に多くの方たちが“食”を見直した

日曜日だけ微力ですがお手伝いさせてもらって非常に良かったと思います。官民のパートナーシップを探りながらの第1号イベントだったことを伺いましたが厚木市という地域の民間の力は私が思っていたよりもかなりのポテンシャルの大きさを感じました。また来ていただいた人には「これほど良いイベントだからもっと告知をするべきだ」との意見があったとおもいますが同感です。

こと環境に関して、山川と市街を持つ厚木市。全国的にみても、なにを始めるにしても理想的なアンテナ都市になりえるはずです。取り組みや実態の展示ももちろん大事ですが、元理系学生としてはNOx測定のようなものをまた違った形で測定、発表できたらおもしろいな。と思いました。

有馬剛史

「未来の食卓」を観賞させていただけてとても嬉しく思います。

子供達が、土に触れ、育てた果実や野菜を収穫する光景は感動いたしました。

自分達の食物は物でなく、生命なのだということを五感を通して知っていくのではないかと感じました。そのことは、身体を養うだけでなく、精神の栄養にもなっていくのであろうなと思いました。

食環境は人々との絆を結び、切れ切れにもなっていく。その国の社会状況も語ることになるのではないだろうかと思いました。地元厚木で地道に活動を続けていらっしゃる方々に頭が下がります。「未来の食卓」に向けて、手つなぎの輪が広がって、生産者と消費者の互助と共生が力強く育まれていけばいいですネ

ファルーク由利子

## みんなの環境展 2010 おたより 北から南から

以前から“未来の食卓”を観たいと思っていたところに市の広報で今回の企画を知り参加させていただきました。私は、40歳を過ぎてから花粉症、喘息、化学物質過敏症、逆流性食道炎、貧血など…次々に体調を崩してきました。そして大切な孫娘もアレルギー、喘息、アトピーを発症し食の大切さや環境問題に関心を持ちながらもなかなか行動に移せませんでした。今回の環境展で貴市民活動のグループがあることをはじめて知り私にも何かできることはないか、参加できることはないかと思入会させていただきました。

岡村

映画「未来の食卓」、安部司先生の講演、パネルディスカッションに参加して、環境、食べるということについて、現在何が起きているのか、またそれが及ぼす影響について、フランスの現実と画期的な取り組み、添加物をマジックのように扱う講演、日本の実態、地域の取り組みと幅広く網羅する内容のフォーラムで、大変有意義な時間を過ごすことができました。

1つの視点からでなく、様々な視点から考えることができ、参加者へ訴えるものであったと思います。私自身、なんとなく添加物はいけないものとしてできる限り生活の中で気を付けているつもりですが、農薬や添加物の蓄積が人体に与える影響の恐ろしさ、それは未来につながることであり、フォーラムに参加してまる1日その現実に向き合うことができ、食べるということはすべてにつながると改めて実感しました。みんな今よりほんの少しでも、口に入れる食べ物のことを真剣に考える日が1年に1回でもあると、世界は少しでも変わっていくのでは。

今回のフォーラムは、環境や食べ物のことを考えるきっかけづくりになったと思います。特に印象的だったのが、映画「未来の食卓」のバルジャック村ショーレ村長の考え方とその実行力です。子どもたちの学校給食、高齢者宅配給食をオーガニックにするという取り組みを、村の財政を心配する住民がいる中で、子どもたちの未来を守るために実践したことです。目の前の安易な考えに、毅然とした態度でその姿勢を貫いたバルジャック村のような取り組みを知ることができたのは、とてもよかったです。

田山綾子

数々の展示を通して、厚木市民による環境に対する啓発活動を目の当たりにし、共感を覚え、お仲間に加えていただき、今日に至っております。

その“みんなの環境展”も毎年、回を重ねるごとに内容も益々進化して行き、そして今年、“みんなの環境展 2010”を迎えた訳ですが、厚木市とのいわゆるコラボレーションといった形で開催され、2日間で延べ500人もの方たちに会場へ足を運んでくださいました。イベントの内容もこれまで以上に厚濃で、非常に充実しました。「食と環境」にテーマを絞り、食べ物を取り巻く環境の危険性と豊かな食生活への見直しを考えさせられました。

環境に対して無知だった私自身、初めて環境展を拝見させていただいた時、温暖化の問題や失われてゆく自然など様々な展示を拝見させていただき、衝撃を受けたものでしたが、その当時の私と同じように 今回の環境展へ訪れてくださった大勢の方たちの心の中で、未来を背負う子供たち、愛する家族、そして何よりも愛すべき自分自身の為、食のあり方、自らの食生活について、今までと違った視点で見つめ直し、行動していくきっかけになれば、大変嬉しく思います。

「千里の道も一歩から」や「積少為大」という言葉が、私の心の中での口癖です。大変微

## みんなの環境展 2010 おたより 北から南から

力な自分ではありますが、環境問題を通じて人と人とが絆を結び、愛する故郷あつぎの明るい未来を切り開いていく地域作りに少しでも貢献できればと願って、これからも活動して参ります。

山上義明

「未来の食卓」の給食では、子供達が梨を皮ごと食べていて、それを見て、よだれが出そうになった。僕は果物の中でも梨が好きで、特に皮との境目の部分が好き。でも農薬がかかっているから、といつも家では皮はむかれてしまう。

また、映画では農薬が原因で病気になった子もいた。「食べ物一つで人生が変わってしまうなんて」とかわいそうに思った。村民が病気になる前に食事で予防しようとしたり、村全体を変えようとしている村長さん達の気持ちがよくわかった。

僕はいつも2回も3回もおかわりする大好きな給食。でも残す子もたくさんいる。あの村みたいになったら、みんなももっと沢山食べるのかもしれない。そして、安部さんの講演会はおもしろかったし、添加物に制限がないことを知ったりと、びっくりしたことがたくさんあった。

お茶に虫が入っているなんて信じられなかった。レモンが無くてレモンジュースが出来るなんて。それでジュース（果汁）と言ってよいのだろうか？ 添加物（変な粉）で作ったジュースの作り方を見たら、みんな買わなくなってしまうと思った。

高橋朗雅（6年生）

あつぎ環境市民の会と厚木市の画期的なイベントに参加させていただき、ありがとうございます。「未来の食卓」そして、安部さんの講演は本当にとってもよかったです。よかっただけに、もっとたくさんの方が来ていたら、と心から思ったことも事実です。

私自身は、子供を産んでから、とても食や環境に興味があり、色々な資料を通して、映画の内容と合致することをよく目にしておりました。また、安部さんのご著書も3年くらい前に出会っておりました。ただ、同じ母親同士話をしても食に関心のない人には、私の拙い説明では、いつも人を動かすまでにはいきません。食というとてもプライベートな問題であるがゆえ、人間関係の溝ができてしまうこともたまにあります。

未来と現実を見据えて、こういったイベントを開催してくれたことで、何も健康食オタクだけでなく、広く沢山の方に食と環境を毎日の自分の生活から少しずつ守っていこう！と言う芽が芽生えるチャンスでもあったと思います。

この日、天候も悪くそのお陰で長男の少年野球が休みとなり、6年生の息子も一緒に参加できました。私が毎日、気を使っている食や環境の理由はなぜなのか、少しでも伝えることができよかったです。安部さんの講演&実験会に参加できて、本人もとても勉強になったといっていました。

体は自分の食べたものでできていることがわかる年代＝自分で食べるものを選択できる年代かと思います。食育が盛んになってきた今、自分が選ぶものが、自分の血となり肉となり、心となっていくことも、学べる機会だったと思います。

白い粉で元気な体作りができるのかどうか、見た人は驚いたのではないのでしょうか。テレビやマスコミでは取り上げられないことに着目して下さった、貴会と厚木市に深く感謝いたします。

高橋（秦野市）



## みんなの環境展 2010 アンケートのまとめ（抜粋）

配布 220 回収 83（回収率 37.7%）

■環境展を何で知りましたか ロコミ=33（39.8%）市広報=19（22.9%）ポスター・チラシ=16（19.3%）マスコミ=14（16.9%）

■お住まいは 厚木・愛川・清川=53（63.9%）県央=11（13.3%）湘南=4（4.8%）横浜・川崎=4（4.8%）その他=9（10.8%）

■性別 男性=23（27.7%）女性=54（65.1%）

■年齢 ~20歳=0（0%）21~40歳=15（18.1%）41~60歳=47（56.6%）61歳~=11（13.2%）

■パネル展示（4階集会室）

①大変良かった 27、②良かった 24、③普通 2、④期待はずれ 0、⑤悪かった 0

■映画「未来の食卓」上映

①大変よかった 33、②良かった 17、③普通 2、④期待はずれ 0、⑤悪かった 0

■基調講演「食品の裏側」安部司氏

①大変良かった 53、②良かった 16、③普通 2、④期待はずれ 0、⑤悪かった 0

■パネルディスカッション【安全な食を子供たちへ】

①大変良かった 38、②良かった 15、③普通 5、④期待はずれ 0、⑤悪かった 0

■「みんなの環境展」について。会期、内容など。

- ・広報の方法を再検討され、より多くの参加者が集まれるよう（全住民が考えるテーマだから）、工夫が必要。具体的な内容、テーマも事前発表する。
- ・パネルディスカッションに何となく参加しましたが大変内容がよく、出席して良かった。
- ・とても分かりやすく、自分達の生活の中にある身近なテーマだったので大変満足できる内容でした。興味があり、この場に足を運んだ人以外のたくさんの人に知って欲しい内容でした。

\*アンケートまとめの詳細は [http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/) に掲載

### みんなの環境 第27号 2010年8月20日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子 / 制作 長岡 恂  
電話/FAX 046-224-5010 e-mail: [mitsuko-karino@ayu.ne.jp](mailto:mitsuko-karino@ayu.ne.jp)  
事務局 〒243-0817 厚木市王子 2-14-3 山中延明 方  
電話/FAX 046-224-9693 e-mail: [ANA40480@nifty.com](mailto:ANA40480@nifty.com)  
郵便振替口座 00200-7-132779（年会費 A:2000円 B:1000円）

(C) あつぎ環境市民の会 2010